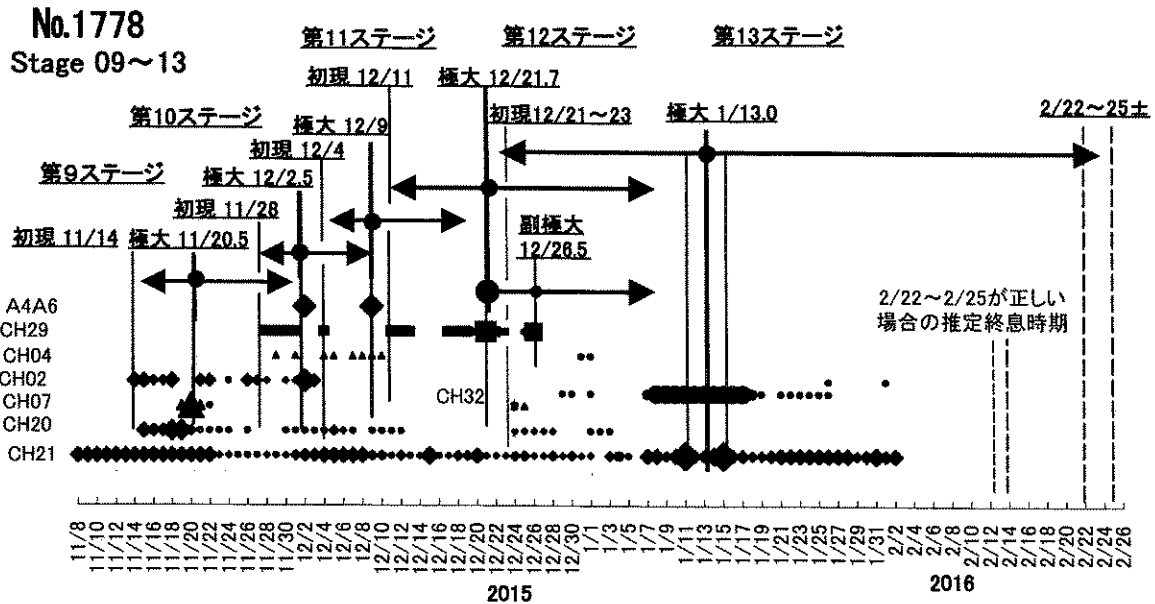


原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254  
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1996

No.1778 長期継続前兆続報 第13ステージの初現=2015年12月29日ではなく→12月21~23日の可能性有



2008年07月初旬より出現しだし、7年7ヶ月と云う観測歴上最長に継続する前兆群（13極大を有する第1ステージで始まり、現在までに13ステージの変化をしながら継続中）の続報現況報告です。

前情報では、第13ステージの極大を01月13日（双極大の中心日）とし、その初現を2015年12月29日の可能性としました。CH32振動型BFが微弱に出現しだした時期です。この認識が正しい場合は、02月09日±を示すことになり、計算される前兆終息時期は、02月02日±となることを記しました。

しかし、本日02月02日夕刻現在、最後まで継続しているCH21特異は、まだ糸状態に近い特異状態で、一兩日中に静穏化する可能性は極めて考え難い状況です。

このことは、第13ステージの初現認識が間違っていたと考えます。上前兆出現状況図を見ますと、各ステージの極大出現後に次ステージの初現が出現しています。この関係から見ますと第13ステージの初現は、前の第12ステージの極大=2015年12月21日より前の時期にある

可能性は極めて考え難いと考えます。12月29日より前で21日より後の時期では、CH07特異とCH20特異が出現しだした12月23日が初現である可能性も考えられます。ステージ8以前には各極大が次極大の初現と云う関係もありましたので、一番早い初現時期としましては、第12ステージの極大である12月21日の可能性も考えられます。この関係を  $T_{\text{fap}}:T_{\text{map}}=20:13$  経験則を使用して計算しますと、

(2015年)	(2016年)	(2016年)
初現12月23.0日の場合—極大01月13.5日→(2/12±)—02月22日±		
初現12月21.5日の場合—極大01月13.5日→(2/14±)—02月25日±		
	↑	↑
	推定終息時期	推定発生日

上記のとおりとなります。

( )内の時期は各関係での計算される前兆終息時期です。2/12~2/14±時期に、現在唯一継続中のCH21特異が終息する可能性が示唆されることとなります。本日02月02日夕刻現在、CH21が

糸状態に近い特異状態が出現していることから、2015年12月29日初現認識は明らかに間違いであると認識されます。従って、02月20日以前に対応地震が発生する可能性は否定できます。

初現を間違っって認識しましたことは深くお詫び申し上げます。

本認識が正しい場合には02月12~14日±時期に前兆終息が確認できることとなりますので、実際に終息するか、観測を続け続報で報告させていただきます。

- ◆推定領域：右図 大枠推定領域=点線領域内  
可能性考え易い 推定域=太線領域内  
※特に斜線領域付近の可能性考え易い
- ◆推定規模：M7.8±0.5
- ◆推定時期：現認識 初現12/21~23が仮に正しい場合=2月22~25日±  
※実際の前兆終息を確認して、 $T_{\text{fap}}:T_{\text{pp}}=6:1$  経験則を使用し、極大~終息関係から修正予定
- ◇推定地震種：震源浅い日本列島陸域地殻地震
- ◇推定発生時刻：午前9時±1 (or午後6時±3)

